

緑化の推進



緑のまなび事業(稲敷市立あずま北小学校学校林等整備事業)

茨城県稲敷市



事業概要

目的は、手入れ不足となっている学校林の再生と敷地内樹木の剪定活動を行うことである。主な活動は以下のとおり。①学校林の剪定と下刈り(つる切りを含む)、②敷地内樹木の剪定、③記念植樹、④児童(本校緑の少年団)による森林環境学習。

事業成果

業者による環境整備により、安全に学校林の整備が実行された。敷地内の樹木剪定も行い、整った環境になった。児童の森林環境学習に使用することで、森林環境の大切さについてより深く学ぶことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹した苗木の成長を確認したり、森林環境学習を継続したりすることで、意識の向上につながる意義のある活動である。(50代PTA役員)
- ・学校環境が整備され、児童が楽しく学校林で活動できる。(70代近隣住民)

参加者の声

- ・自然環境が豊かな本校でのこのような企画は子どもの教育に非常に良いと思った。(40代女性)
- ・植樹した木を今後も大切に育て、思い出の木にしたい。(小学生男子)



記念植樹



完成式典で記念撮影



整備前



整備後

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
下刈面積：1,720㎡

参加者数

県内：61人
計：61人

樹種

コハウチワカエデ

活樹祭～親子森林教室 in 川崎町～

宮城県川崎町



事業概要

母子家庭の子どもたちは、家庭環境から野外体験や森林体験のような活動をする機会が少ない現状がある。本プログラムはキャンプのような野外体験と森林整備の体験を組み合わせることで、森林の課題と魅力にふれながら、木材の利活用への理解を促進することを目的とする環境教育活動である。実施した内容は以下のとおり。①森のクイズによる森林学習、②森林整備体験（伐採体験）、③キャンプ体験（薪割り、火おこし）、④木工体験。以上4つのプログラムを実施した。

事業成果

実施にあたり、るぼぼの森オートキャンプ場及び百のやどと協働し実施。また宮崎県母子福祉連合会の協力を得て母子家庭の家族を対象に参加者を募った。百のやどは、放置林の整備からはじめ現在ゲストハウスを運営している団体合同会社百による体験活動を実施。るぼぼの森ではキャ

ンプ場ならではの活動として、薪を使っての火起こし体験、木のスプーン作りを実施。子どもたちの社会性の向上、母親同士の交流の時間もつくったことで、母子家庭という家庭環境の親のコミュニティを広げることにもつながったと思われる。本プログラムでは、るぼぼの森、百が参加し、地元団体のつながりも生み出すことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・朝から晩まで、子どもたちと一緒に活動し、子どもたちから元気をわけてもらった1日となった。
- ・子どもたちの貴重な経験の場を提供していただき感謝。

参加者の声

- ・充実した内容と普段では体験できない内容で子どもたちも楽しめた。
- ・親子ともに大変充実した2日間となった。学校でも家庭でも、絶対にできないすばらしい経験をさせていただけた。



倒す木の方向を検討（間伐体験）



受け口をつくる（間伐体験）



薪割りの説明



年輪を数える

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用：薪割り、火起こし
 間伐体験：3本
 木工クラフト：1回

参加者数

県内：13人
 県外：2人
 計：15人

地域における園庭・裏山整備等モデル事業(2年目)

長野県上田市、東御市



事業概要

園庭緑化・裏山整備などに詳しい指導者がおらず、具体的な実践に着手できていない園が、新たに保護者や地域住民などの参加を得た取り組みを開始できるような支援モデルの構築を目的とする。本事業では、上田地域においてこれまで幼児期を対象にした森林環境教育や森林整備活動の実績を有する森林NPO団体（やまぼうし自然学校）と、保育・幼児教育の専門性を有する保育者養成校（上田女子短期大学）が連携した支援体制を構築した上で、①園庭・裏山などの整備計画策定、②園庭緑化・裏山など整備活動、③安全研修などをパッケージで支援するスキームを構築する。

事業成果

上田女子短期大学附属幼稚園では、卒園児保護者グルー

プが結成され、5回以上活動に参加した卒園児を「やまもりキッズ」として任命する枠組みを創設。「やまもりフェスタ」では、多くの参加者を得るとともに、メディアにも報道され、地域に開かれた裏山整備活動の契機となった。また、長野県東御市和地域児玉山では、参加型の里山整備活動を開始。「子どもの遊び場づくり」という視点で活動を行い、地域づくり組織内でも高い評価が得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業の自然保育（やまほいく）・森のようちえんの活動は、森や保育に詳しい森林NPOなどとの協働のモデル事業として評価できていると感じている。地域資源の活用と地域一体となった子育ての拠点になり得る可能性を感じ、今後に期待している。（指導者）

参加者の声

- ・手入れされていなかった森が、自分たちの手によって整備されていく様子がうれしかった。今後もどんな森になって行くのが楽しみ。（保護者）
- ・家族と裏山で過ごせて楽しい。（園児）
- ・あそび場が広がってうれしい。（園児）



植樹活動



ベンチ作りのための丸太搬出



やまもりキッズの任命式



除伐作業

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5本
 下刈面積：0.3ha
 除伐面積：0.8ha
 間伐面積：0.7ha
 森林資源活用：3回
 遊歩道設置：230m
 その他：看板作り、森林調査、森林観察、森遊び、森林浴体験、ネイチャーフォト、クラフト、安全研修

参加者数

県内：833人
 県外：7人
 計：840人

樹種

オオヤマザクラ

里山の新しい楽しみ方に挑戦！「安馬谷里山」アップデートプロジェクト(SDGs 貢献事業)

千葉県南房総市



事業概要

千葉県南房総市にある安馬谷（あんばや）里山では、安馬谷里山研究会が保全活動を行ってきたが、高齢化などにより活動を持続することが困難となっている。本事業では、里山に新しい人の流れを作りだし、活用を促進することを目的に、以下の取り組みを実施する。①地元中学校と連携した里山整備活動、②里山の魅力を感じるワークショップ、③里山ガイドマップの作成、④ICTを活用したセルフガイドアプリ（はなもく散歩）の開発。

事業成果

講師を招き、新しいイベントを企画することができた。また、里山での整備活動を地元中学校と連携し、授業の中で実施できたことや、里山で培った知恵や自然の知識などを安馬谷里山研究会の方から直接伝える機会を作ることができた。里山マップや樹木名板の整備により、親しみを持って安馬谷里山に関わるきっかけをつくることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しいアイデアや考え方が導入され、里山の活用について実践できた。また、地元中学生へ里山の魅力や知識を伝えることができてよかった。（安馬谷里山研究会）
- ・地域の方の活動に対する想いや知識、技術について、直接聞くことができ、貴重な機会であった。里山の木の実を食べる良い経験もできた。生徒たちも里山の中で生き活きとしていた。（中学校教員）

参加者の声

- ・講師の里山の知識がすごかった。南房総にこのような豊かな里山があるとは知らなかったので新しい発見が多かった。（里山散策と里山アロマクリーム作りの参加者）
- ・里山の保全活動の手伝いをする事ができて達成感があった。また、里山の植物の香りを感じたり、木の実を食べてみて里山にはたくさんの資源があることが分かった。（中学校生徒）



間伐作業



中学生を対象とした出前授業で樹木名板作成



安馬谷の里山散策と里山アロマクリーム作り



小学生を対象とした里山クラフト体験

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
 下刈面積：2ha
 間伐面積：2ha
 その他：樹木名板作り・設置、
 里山クラフト体験、里山散策
 と里山アロマクリーム作り、
 インスタ投稿まで“裏側”体験
 WS、虫探しツアー

参加者数

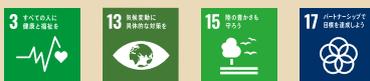
県内：232人
 計：232人

樹種

カヤ

緑の祭典 “かながわ未来の森づくり” 2024 in さがみはら

神奈川県相模原市



事業概要

平成22年神奈川県での第61回全国植樹祭を契機として取り組んでいる森林再生について発信することや、県民との協働による森林づくりを推進していくため、市制70周年を迎え、都市と自然のベストミックスを掲げる相模原市において、森林とのふれあいを促進するイベント「緑の祭典 “かながわ未来の森づくり” 2024 in さがみはら」を開催する。併せて、県全体の森林・林業関係施策の成果などを示し、参加者の森林・林業への見識を高めるとともに、ナラ枯れ被害地の植樹を通じ、都市の貴重な緑の持続的な保全・再生について考える機会とした。

事業成果

多くの都市住民に都市林のすばらしさを満喫いただけるイベントとなった。特に、ナラ枯れ被害地の植樹活動を通して森林の再生を体験していただき、今後の森林の保全について考える良い機会となったと思う。

事業をよく知る関係者の声

・令和6年度の会場は、市街地内の森林で日頃から近隣住民の出入りも多い場所であったこともあり、参加申込み人数以上の来場者がみられ盛況となった。山林地域以外での開催により、森林が身近でない方々に興味を持っていただく良い機会となった。今後の課題として、公共交通機関を使っでの来場である場合は、来場者が多いと見込まれる時間帯は、受付対応人数を増やすよう、あらかじめ人員配置するようにしたい。(神奈川県森林再生課長)

参加者の声

・身近なところに、すばらしい森林があり、改めて驚いた。天気にも恵まれ、1日森林体験をできて楽しかった。(公募参加者)

・いつもの森林が、緑の祭典会場になり感慨深い。多くの人に森林を体験してもらい、今後の森林の保全活動にも精を出していきたい。(地元森林ボランティア)



受付時の状況。多くの来場者で賑わう



式典の様子



植樹活動



自然観察会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：450本

参加者数

県内：705人
県外：12人
計：717人

樹種

コナラ、クヌギ、ヤマザクラ

倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座

北海道倶知安町



事業概要

「百年かけての森づくり」をテーマに、地域の森を次世代へ引き継ぐために、地域の人々の参加による森づくり活動と幼稚園児によるキノコの植菌体験学習を含む森づくり実践講座をげんきの森で実施するとともに、森づくりのための人づくり活動として専門家・学識者などを招いての森づくり教養講座を積雪期に倶知安風土館で実施する。

事業成果

自然度の高い在来の森づくりを基本とする作業や、馬搬による自然にやさしい伝統的な森づくりへの関心が高まり、冬期の講座への参加が増え、今後の活動に興味を持ったとの声が多く聞かれた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本年度は、リピーターによる参加が定着したが、まだ活動が地域の人々に知られていない。更なる普及・啓発が必要である。活動の内容を地域に発信することに力を入れていきたい。100年後の森の姿を楽しみに活動を続けたい。

参加者の声

- ・長く倶知安町での森づくりの活動に参加してきたが、森への興味・知識が高まるにつれて森の見方が変わってきていることを実感している。往復4時間の移動も苦にならない。(札幌からの参加者)



幼稚園児と間伐材を利用した植菌体験



探鳥会と動植物調査



外来種オオハンゴンソウの除去作業



馬搬・馬とのふれあい体験

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.5ha
 間伐面積：1ha
 森林資源活用：ホダ木、薪
 その他：森林教室、生物調査、森づくり作業、馬搬

参加者数

道内：105人
 計：105人

士幌町げんきの森 木育促進事業

北海道士幌町



事業概要

高校生や地域住民を対象に士幌町の森林環境教育を実施する。主な活動は、下刈り、伐倒、薪割りなど。外部講師として、十勝管内の木育マイスターを講師に迎え、地域林業について学習を深める。

事業成果

普段林業に関わることの少ない高校生が、今回の事業をきっかけに林業や森林環境へ興味関心を抱く結果となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・助成金を活用することで、森林環境教育がより発展する可能性を感じた。経済と林業、地域産業などを合わせて考えると参加者の今後の進路などに有効ではないか。(同校勤務教諭)

参加者の声

- ・初めての環境の学習だったが、林業の話やイベントなど、何が面白いのか、楽しいかなどが分かった。今後、実践を繰り返し、意欲的に取り組んで行きたい。(高校1年男子)



薪割り体験



下刈り体験



大径木除伐の枝移動



枝落とし体験

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：0.38ha

除伐面積：0.01ha

間伐面積：0.01ha

参加者数

道内：233人

計：233人

早生樹によるカーボンニュートラル貢献事業

宮城県仙台市



事業概要

早生樹によるカーボンニュートラル貢献事業の一環として、令和6年5月に宮城県加美郡加美町の林地にて早生樹植樹祭を開催。目的は、早生樹としてヤナギの一種に着目し、木質バイオマス発電の燃料利用についての有効性を探ること、迅速な生育特性を生かした木質バイオマス資源の循環利用システムを作ることである。当日の主な活動は、①377本の早生樹苗の植樹、②先行的に行っているほかの早生樹の成長状況の見学、③参加者による意見交換会。

事業成果

早生樹苗(ヤナギの一種)の植樹を宮城県で初めて実施し



加美町植栽地地拵え後



加美町植栽地植樹風景

たことで、早生樹の有効活用のための調査研究を行う第一歩を踏み出すことができた。また、地元林業会社や関係自治体などの方々に実際に見ていただくことができ、説明だけでは伝わりづらい臨場感を持って早生樹をPR広報することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の早生樹(ヤナギの一種)には普及性があるのか。現在の落葉広葉樹を活用したほうが良いのではないだろうか。また、造林補助対象樹種になることが必要である。(関係緑化推進団体)
- ・課題としては、苗が普及していないことからその価格が高いといったコスト的な部分がある。(関係自治体)
- ・コスト面で補助制度の確立が必要。(地元林業会社)

参加者の声

- ・今後宮城県でもスギなどに代わる有用な木材の一つとなってくればと期待する。(地元林業会社)
- ・様々な可能性を試すことは、今後の林業界にとって大変重要だと感じる。(地元林業会社)
- ・早生樹を活用した木質バイオマス資源サイクル構築に期待したい。早生樹の果たす役割は大きくなると思われ、成功事例を多くつくってほしい。(関係緑化推進団体)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
 植付本数：377本
 下刈面積：0.2ha
 除伐面積：0.2ha

参加者数

県内：43人
 県外：8人
 計：51人

樹種

早生樹ハルシベヤナギ

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市



事業概要

緑とのふれあいなどを通して、沿岸被害住民と山村住民の交流を図りながら、東日本大震災からの復興を誓うとともに森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

登米市において、南三陸町の被災住民を招いて森林体験を実施できた。数年ぶりに、相互参加で開催された植樹祭では、米川小学校みどりの少年団を始めとする地域住民と南三陸町の被災者との交流が行われ、双方の参加者は、心が和む楽しいひとときを過ごすことができた。特に被災地住民参加者からは、このような、野外での活動は貴重な取り組みであり、今後の継続を望む声が多数あった。

事業をよく知る関係者の声

・今年度は相互参加による交流活動が行われ、参加された被

災者の方々に喜んで頂けたことが何よりである。(50代 登米市担当部長)

- ・東日本大震災を風化させないためにも、みどりの少年団を含む登米市住民と、南三陸町などの被災住民との交流は必要と考えており、引き続き実施していただきたい。(50代 県事務所担当部長)

参加者の声

- ・自分たちで木を植え、達成感があった。大きく育ててほしい。(小学生女子)
- ・土を触ったり木を植えるのが楽しくて、自然がもっと好きになった。(小学生男子)
- ・地元の自然の中で植樹活動ができて、とても心が癒やされた。野外での作業は久しぶりだったので、爽快な気持ちになれた。(70代女性)
- ・自分が植えた木が次の世代のために育つと思うと、とても誇らしい気持ちになった。(70代女性)



スギを植樹



ドングリ(コナラ、クヌギほか)の播種活動



シイタケの植菌体験



シイタケの収穫体験

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1,000本
播種活動、森林体験(シイタケ作りと収穫)、防災交流

参加者数

県内：138人
計：138人

樹種

スギ、コナラ、クヌギほか

「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業

宮城県東松島市



事業概要

令和3年全国豊かな海づくり大会において東日本大震災からの復興を遂げた「みやぎの豊かな海」を県内外へ発信したことに加えて、令和7年全国育樹祭が本県で開催されることから、森林の大切さや、復旧した海岸防災林の姿を通じて、震災の教訓を広く全国へ発信する機会ができた。これらの大会を契機に、森と海、人々の絆をさらに深めていくため、沿岸養殖漁業の盛んな東松島市の浜市漁港に隣接し、東日本大震災の津波により被災した海岸防災林の再生を図り、水産業の環境改善を目指して、森と海の関係者や次代を担うみどりの少年団が協働で植樹活動を実施する。

事業成果

林業と漁業の関係者に加え、次代を担うみどりの少年団が協働で植樹活動を実施。より幅広い世代に「森と海」の関わり、森も海も豊かにする森林づくり（海岸防災林）の意義を伝えることができた。今後も県全体の豊かな森と海を育む活動を進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・県行政においても「みやぎ森と海の交流促進事業」として、沿岸域での森と海との協働活動を推進しており、連携することで相乗効果が期待される事業である。今後も、平成31年度に発足した「宮城県水産林政部」における水産サイドと林政サイドとの協働プロジェクトを推進するツールとして、取り組んでいきたい。(50代 県水産林業政策室長)

参加者の声

- ・防災林は市街地の塩害も軽減する。山と森の栄養が海に流れて、海産物がよく育ち、いいものが水揚げできる。少しでも震災前の豊かな海に近づいてくれればと思う。(50代 県漁協塩釜総合支所長)
- ・釣りが好きなのでよく海に行く。魚がよく育つためにも木も大きく太く育ってほしい。(鳴瀬桜華小学校みどりの少年団員)



抵抗性クロマツを植樹



ヤマザクラを記念植樹



植樹会の様子



植樹活動に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：603本

参加者数

県内：100人
計：100人

樹種

抵抗性クロマツ、ヤマザクラ

組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(1)

石川県七尾市、輪島市、珠洲市



事業概要

「令和6年能登半島地震」により、避難所生活が長期化している中、避難所などでは、共用スペースでは多数の支援物資などが平置きされて生活スペースを圧迫したり、平時を超える利用者が滞在する中で、靴や傘が散在し、さらに避難者の生活スペースも日用品などが整理できない状況にある。そこで、常に変化する避難所などのニーズに応じて、自由に組み立てられる間伐材などを活用した組み立て什器「組手什」を全国の生産者から確保し、避難所などにおいて、物資整理棚、多数の避難者が利用できる下駄箱や傘立て、日用品を整理できる整理棚などを組み立てて提供した。

事業成果

避難所などにおいては、支援物資などの整理棚を提供することで、避難者などに効率的・機能的に支援物資などを配置・提供することができるようになった。また、下駄箱・傘立てを提供することで、スペースを機能的に利用すると

ともに、避難所内の衛生管理にも寄与した。個人スペースにも整理棚を提供することで、日用品を立体的に配置したり、木の香りや温もりで心地よい生活環境を整えることができた。さらに、被災地産の組手什を迅速に生産することで、被災地の間伐材などの使用を通して森林整備と雇用創出にいち早く寄与できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・木の下駄箱を組み立て、設置していくにつれ、スギの香りにつまれ、それだけで癒し空間になった。私たち被災者の心に木の温もりが伝わってきた。ご支援、本当にありがとう。(避難所運営責任者)
- ・組手什は避難所に絶対に必要だ。声を大きくあげて言いたい。(避難所運営スタッフ)

参加者の声

- ・娘と孫と参加したが、女性も子どもも一緒に楽しんで作れた。



組立て什器を搬入 (石川県輪島市門前 支援物資倉庫)



皆で組み立て作業 (石川県七尾市「矢田郷地区コミュニティセンター」)



日用品を立体的に配置 (石川県七尾市「田鶴浜地区コミュニティセンター」)



通路のスペースも有効活用 (石川県輪島市「河原田公民館」)

実績とりまとめ

作業内容

組手什提供：
11,490本 (21回)

参加者数

県内：344人
県外：12人
計：356人

組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(2)

石川県金沢市、七尾市、輪島市、珠洲市



事業概要

「令和6年能登半島地震」により、避難所生活が長期化している中、避難所などでは、共用スペースでは多数の支援物資などが平置きされて生活スペースを圧迫したり、平時を超える利用者が滞在する中で、靴や傘が散在し、さらに避難者の生活スペースも日用品などが整理できない状況にある。そこで、常に変化する避難所などのニーズに応じて、自由に組み立てられる間伐材などを活用した組み立て什器「組手什」を全国の生産者から確保し、避難所などにおいて、物資整理棚、多数の避難者が利用できる下駄箱や傘立て、日用品を整理できる整理棚などを組み立てて提供した。

事業成果

避難所などにおいては、支援物資などの整理棚を提供することで、避難者などに効率的・機能的に支援物資などを配置・提供することができるようになった。また、下駄箱・傘立てを提供することで、スペースを機能的に利用すると

ともに、避難所内の衛生管理にも寄与した。個人スペースにも整理棚を提供することで、日用品を立体的に配置したり、木の香りや温もりで心地よい生活環境を整えることができた。全国の生産者から借用した加工機械などを活用し、被災地産の組手什も生産でき、被災地周辺の森林整備と木材産業の復興、そして雇用創出にいち早く寄与できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・収納棚などを提供して、生活環境の改善に役立った。組手什の組み立てのワークショップの実施により、避難者同士や学生などのボランティアが対話・交流でき、さらに具体的な整理棚などの成果が見えるものが作れることで、避難者が前向きな気持ちになるきっかけにもなった。

参加者の声

- ・椅子の上などに荷物を置いていたが、スペースが限られたので、棚を作れてよかった。洋服掛けや子どもの椅子が欲しかったので、自分たちで考えて作れてよかった。



個人の生活スペースに設置する棚を製作中
(石川県輪島市門前東小学校体育館)



ボランティアとの交流で笑顔があふれる
(石川県輪島市風の家)



大きな下駄箱も製作できる (石川県輪島市門前中学校)



組手什の製造

実績とりまとめ

作業内容

組手什提供:8,855本(16回)

参加者数

県内:202人

県外:3人

計:205人

組立て什器（組手什）を用いた能登半島地震復興支援事業(3)

石川県輪島市、珠洲市、能登町



事業概要

「令和6年能登半島地震」により、避難所生活が長期化している中、避難所などでは、共用スペースでは多数の支援物資などが平置きされて生活スペースを圧迫したり、平時を超える利用者が滞在する中で、靴や傘が散在し、さらに避難者の生活スペースも日用品などが整理できない状況にある。また、仮設住宅団地や仮設住宅でも収納スペースが限定される状況にあった。そこで、被災地の森林整備の促進や木材産業の活性化、雇用の創出に寄与するように、石川県能登半島を中心にした木材産業関係者により生産体制を構築し、常に変化する避難所や仮設住宅団地などのニーズに応じて、自由に組み立てられる間伐材などを活用した什器「組手什」を組み立て、物資整理棚、下駄箱や傘立て、日用品を整理できる整理棚などを提供した。

事業成果

避難所や仮設住宅団地などへ、整理棚や下駄箱・傘立て

を提供することで、スペースの機能的な利用や避難所などの衛生管理にも寄与した。避難所の個人スペースや仮設住宅でも木の香りや温もりで心地よい生活環境を整えることができた。さらに、全国の生産者から借用した加工機械なども活用することで、能登半島内の被災地産の組手什も生産することができ、被災地周辺の森林整備と木材産業の復興、そして雇用創出に寄与できた。

事業をよく知る関係者の声

- 避難所や仮設住宅団地においても、集会所・個別住居では、スペースが限られているため、組手什は大変好評であった。具体的に棚の配置先や制作例を示すことで、多くの方が思い思いに制作されていた。

参加者の声

- 屋外でのワークショップ、被災者同士や学生などのボランティアと対話・交流ができたことや棚などの成果が見えるものが作れたことで、前向きな気持ちになった。



「組手什」の組み立てを通して交流でき笑顔があふれる



「組手什」の組み立て活動の様子



傘立て



靴の収納棚

実績とりまとめ

作業内容

組手什提供：1万本
提供活動実績：34回

参加者数

県内：911人
計：911人

健康な森づくりに関する作業および調査事業

北海道富良野市



事業概要

団体の活動が令和6年度で20年となるため、森林の環境が変化してきていることについて科学的評価することを目的とし、健康的な森林の基準を専門家や地域住民と一緒に、森づくりを考える機会を設けた。主な活動は、①地域の子どもたちを対象に森づくりイベント「へそ森クラブ」を実施、②元ゴルフ場での植樹活動、③間伐作業、④富良野以外の場所での森づくり企画で植樹会を開催。

事業成果

昨年に引き続き、森林評価のための環境調査を行った。その結果を地域の子どもたちとのイベント「へそ森クラブ」で共有することができた。自分たちの街に森林があり、変化しているということが分かったと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境調査を昨年度から開始。客観的な意見を専門家から頂戴する機会が増えた。自動撮影カメラを設置したことで、エゾシカ、エゾタヌキ、キタキツネ、ヒグマなど多くの大型哺乳類が再生している森林を利用しはじめていることが分かり、ゴルフ場の自然返還が進んでいることを感じた。反省点としては、スタッフの減少に伴い、フィールド管理業務が滞ってしまったことだ。

参加者の声

- ・事業開始当初に木を植えたことがあり、その木の場所を訪れることができ良かった。また夫婦で木を見にきたい。(80代夫婦)



小学生12人による植樹活動



小学生67人による元ゴルフ場の植樹活動



野生動物観察のためのレコーダーを木の幹に設置(森林調査)



環境調査

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha

植付本数：1,500本

森林調査、環境調査ほか

樹種

ハウチワカエデほか

持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト

北海道弟子屈町



事業概要

事業実施場所である弟子屈は、ひがし北海道有数の観光地である。その主流はドライブ観光であり、自動車による長期移動によって排出されるCO₂（年間推定630万kg）を植樹（1本14kg）によってニュートラル化することをテーマに、植樹祭及び住民・子どもたち向けの学習会（木育教室）を開催する。

事業成果

「そらの森プロジェクト」の活動から「カーボンニュートラル」のテーマになり13年目となる。植樹範囲も年々広がってきており、参加者も地域住民や子どもたち、障がい者、観光客らを含めて延べ600人を超え、森づくりの夢は順

調に進んでいる。過去に植樹した際に台風の影響で育ちが悪かった区画のメンテナンスを実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・雨天で延期になったが、無事開催できて良かった。すばらしい取り組みなので、規模を大きく、地域の盛り上げとともに自然を豊かにしてもらいたい。

参加者の声

- ・子どもたちとふれあいながら植樹ができて良かった。(30代女性)
- ・森をつくるという取り組みはすばらしい。(40代女性)
- ・植樹の後のジンギスカンで地域の方と交流できて良かった。(30代男性)



植樹祭



カラマツほか4種を植樹



植樹には子どもたちも参加



植え付ける苗と植樹場所風景

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.7ha
植付本数：210本
下刈面積：0.8ha

参加者数

道内：47人
計：47人

樹種

カラマツ、ヤマモミジ、ドロノキ、アカエゾマツ

白神自然学校遊々の森並びに植林地の除間伐材の伐採・再利用事業

青森県鱒ヶ沢町



事業概要

白神自然学校遊々の森は、整備されていない国有林を除間伐・地拵えしながら植林を実施してきた。その際に伐採して生産されたスギ材をリサイクルして有効に再利用することを目的に活動を実施。SDGsの「陸の豊かさ」を体験して、持続可能な取り組みを実践することで、木材を大切に使うことに対する理解者を増やし、木を大切にするネットワークを広げていく。

事業成果

雪囲いや平板を意識して、長い材を確保することを意識したことにより、多目的活用を可能にした。除間伐材なの

で、加工後は少し曲がった平板とかになっているが、有効に活用できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・津軽森林管理署鱒ヶ沢事務所の森林担当官は、私たちの取り組みに、とても理解を示してきている。
- ・東北森林管理局の局長・森林整備部長も積極的に応援してくれるようになった。

参加者の声

- ・単なる植樹だけでなく、木を植え、有効に利用する取り組みは、言葉では分かっているが、体験でき理解できた。



ブナを植樹



クワを使用しての植樹



製材したスギの加工品



スギの枝葉はアロマの材料として活用

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.0ha
 植付本数：125本
 下刈面積：1.0ha

参加者数

県内：115人
 県外：30人
 計：145人

樹種

ブナ

「癒しの森」にヤマザクラを100本植える

宮城県栗原市



事業概要

栗駒山の麓にある名所の「行者の滝」の隣接地は、平成20年の地震により荒涼とした場所となっている。この場所を緑豊かな植生に戻し、人々が集い、一休みできる森林にしたいという思いで活動を開始。令和4年に栗駒山系からヤマザクラの種を拾い、育てた苗100本を地域の方から植えてほしいと託され、さらに1年間育てた。その苗を今回の事業で植えることになり、広葉樹とサクラを合わせて358本植えた。苗の生育をよくするために排水路の整備や植樹後も補植や下刈りをして苗を守っている。

事業成果

長年製作依頼していたベンチが完成し、2脚設置された。昨年試みに8本植えたが無事に育っている。令和6年5月の植生調査時にはサクラも他の苗も元気に育っていた。これもパーク堆肥・肥料・チップを使いしっかり植えている

ことや、下刈りをして苗を守っている成果である。令和4年度から植えたサクラは合計92本。このサクラが「癒しの森」を華やかにしてくれることを願っている。

事業をよく知る関係者の声

- ・宮城北部森林管理署では、大変評価していただいている。宮城北部森林管理署からの推薦で令和6年の林野庁長官から感謝状をいただいた。今後の課題は、あと数年下刈り作業を継続する必要があるが、当会の高齢化問題により現地までの交通手段、作業員の確保をどうするかにあるかと思う。早期に現地のボランティア団体と共に作業できる体制を整えたい。

参加者の声

- ・大変な作業を続けていただき感謝している。(栗原市長)
- ・何度か参加しているが、来るたびに植樹面積が広がり、将来が楽しみ。(国の機関)



植樹活動



下刈りと支柱のメンテナンス



排水路整備



ベンチの設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.25ha
 植付本数：358本
 下刈面積：1.05ha
 ベンチ設置：2基
 穴掘り・肥料搬入と準備、生育調査、排水路整備：各1日

参加者数

県内：134人
 県外：3人
 計：137人

樹種

トチ、ミズナラ、サクラ

害虫被害木の整備と市民・子どもたち参加の里山保全整備事業

茨城県古河市



事業概要

コナラ・クヌギの広葉樹が主体となっているフィールド「稲宮の森」は、県内において大発生している害虫による立ち枯れ木が発生している。健全な樹木にも被害が及ぶ恐れがあること、立ち枯れによる倒木などにより人的被害の危険性もあるため、被害樹木の伐採・搬出と伐採跡地に里山の景観向上を図ることを目的に、ソメイヨシノの植林を実施する。里山の景観向上は、市民が里山とのふれあいなどにより関心が高まるのが自然環境保全啓発につながる。

事業成果

害虫被害樹木と風倒木の伐採搬出処理を実施。伐採跡地には花木を植林、里山の景観向上を図ってきた。開花時期には市民の入山も多くみられ、身近なふるさとの里山を保

全する認識が高まってきた。また、石油・ガス・電気などの料金高騰により、薪ストーブの利用が増加。その薪ストーブの燃料として、伐採材の薪材としての活用が高まってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・里山の保全活動着手前は「ごみ山」として、市民は里山の関心が無くなり、荒廃していたが、保全整備の進捗と里山で花見の観賞ができるなど、現在では市民の散歩コースとして活用されている。

参加者の声

- ・保全整備された里山に「ふれあう」ことができた。
- ・毎年開催している市民参加の観察会の実施などにより、里山とのふれあいが多くなってきた。



下刈り



被害樹木の伐採・搬出



害虫被害樹木調査体験でトラップ作り



自然環境(里山)保全観察会で「森の中のコンサート」

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：50本
 下刈面積：2.5ha
 除伐面積：0.5ha
 森林資源活用(薪)：5m³
 イベント2回

参加者数

計：625人

樹種

ソメイヨシノ

ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座

群馬県高崎市



事業概要

森のボランティアが高齢化して後継の育成が急務である。本事業は、誰でもできる森のボランティア活動として、下刈りや集めた枝を粉砕してできたチップを再び森に撒く活動を実施。今回は、子どもが多く参加したため、鎌や剪定ばさみを使用し、実際に森をきれいにする作業を体験してもらった。

事業成果

小学生から80代の参加者まで活動に参加することができた。昨年に参加した子どもから「森が楽しかった」との声があり、今年度は親子で参加してくれた。当初の活動から比較すると若い人の参加が多くなった。森に来てもらえれば

森の活動の楽しさを伝えることができ、森に親しみを感じてもらえることができると感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年継続して活動しているので地元でも知名度がアップしている。これからも継続して活動してほしい。(地元70代)

参加者の声

- ・森の中は広くてすがすがしくて大変気持ち良かった。(小学校5年生児童)
- ・遠いので少し億劫になっていたが、バスで行けたので参加して良かったと思う。(50代)



森の枝を集めてチップを作る



作ったチップを撒く作業



鎌や剪定ばさみを使用し森の手入れ



森のボランティア活動に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1.0ha

参加者数
県内：50人
計：50人

大人も子どもも楽しめる「あそびのもり」整備事業

群馬県太田市



事業概要

地域の方々や幼稚園の園児、保護者など、周りの人々が自然をより身近に感じ、ふれあうことができる環境で豊かな感性を育み、保護者も安全で安心できる子育て支援の森づくりを目指す。主な活動は、植樹祭を行い、園庭に植樹をすること。

事業成果

植樹祭を開催し、地域の方々や幼稚園の保護者が参加したことにより、地域とのつながりや人と人とのつながりができた。そして、園児たちが植樹を体験したことで、水やりをするなど、木を大切にする心が芽生えた。まだ木陰はつukれない大きさだが、景観が良くなった。

事業をよく知る関係者の声

・広さは十分である園庭だが、木陰ができる樹木が無く、夏は過酷な環境である。今回植樹したことにより、今後、木陰が増えると思うので、良かった。

参加者の声

- ・初めて植樹作業を行った。業者の方の説明を受け植樹を行ったが、ただ単に植えるのではなく、向きや角度など奥深い説明も聞くことができ、貴重な体験であった。(40代男性)
- ・植樹により木が増え、葉はなくても、園庭の景観が一気に変わったことに驚いた。(保護者30代女性)



植樹作業（第1回植樹祭）



作業説明を受けながら植樹完了



子どもたちも植樹を体験



「あそびのもり」植樹完了セレモニーにて、木々と記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：53本
下刈面積：0.1ha

参加者数

計：54人

樹種

アオダモ、アオハダ、シラカバ、アカシデ、コハウチワカエデほか

千葉県富津岬の松林再生植樹活動

千葉県富津市



事業概要

目的は、千葉県富津市の富津岬周辺の松くい虫の被害により枯れた松林の再生である。主な活動は以下のとおり。①松枯れで、灌木やタケ、雑草が生い茂り荒廃している松林内の灌木など撤去、地拵え、②クロマツの植栽、③植樹後の下刈り（2回）、④タケが繁茂した場所のタケの伐採、タケの抜根とかき起こし（業者委託で重機による作業）。

事業成果

大半のマツが枯れ、灌木やイバラ、ツル系植物などが繁茂し、不法投棄も目立っていた活動地は、灌木などを撤去することで明るくなり、不法投棄は減少した。SNSや当団体役員のネットワークで、首都圏在住の市民が植樹活動や下刈りに参加してくれた。通信系の企業から寄付を集めるなど、今後の活動に向けた財政基盤も一部獲得できる見込みがあった。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動地の現況は、イバラやツル系植物が繁茂し、地拵え作業は危険を伴う作業で、ボランティアで実施できるレベルではない。チェーンソーや電気剪定鋏など道具を駆使できなければならぬため、実施体制は慎重に考えるべきだろう。（地拵え作業に参加した造園技術士）
- ・活動地は公共交通機関が極めて少なく、自動車などでアクセスしないと参加が難しい。今年と同様で現地までの輸送手段（貸切バス）は大変ありがたい。（参加企業担当者）

参加者の声

- ・初めて植樹活動に参加した。木を植える行為は神聖な感覚を持った。（企業社員）
- ・植樹した場所が平坦な場所で、想像していたほど危険でなく、子どもたちも怪我なく活動できたので大変楽しかった。（家族連れ参加者・一般市民）



植樹地の下刈り（1度目）



地拵え作業中



植樹活動



植樹に参加された皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.093ha
 植付本数：400本
 下刈面積：0.14ha
 地拵え面積：0.093ha

参加者数

県内：9人
 県外：40人
 計：49人

樹種

クロマツ

遊びと五感を育む「里山園庭」プロジェクト

岐阜県美濃加茂市



事業概要

身近に森がない保育園の園児に自由な遊びや五感体験を提供するため、持続可能な社会のデザイン手法として知られるパーマカルチャーの理念をもとに、緑化だけでなく五感を使って遊ぶことができる園庭をスタッフや保護者、子どもたちと共に手作りしていく。主な活動は以下のとおり。

- ①園庭のデザイン、②保護者や地域の人による資材集め、③専門家指導のもとで親子やスタッフと共に行う園庭づくり、④園庭の自然の観察とメンテナンス。

事業成果

保護者や地域の方そして園のスタッフが積極的に関わってくれた。五感を使った自然体験だけでなく、保育の在り方について変化が見られるようになってきた。緑化が進むだけでなく保護者、スタッフ、地域のネットワークが少し

ずつ生まれてきた。この様子をドキュメンタリー動画としてホームページにアップしたところ、多くの反響があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・親子やスタッフが一緒になっての園庭づくりをすることで、子育ての当事者になる。保護者にとっては、関心や責任が生まれ、共に子育てをしていこうとする構えが生まれる。スタッフにとっても、どんな経験を子どもたちにさせたいかを考えることにつながる。また、子どもがどんな動きをするのか、退屈していないか、危険ではないかなど、子どもの姿を丁寧にとらえることにつながり、それが質の高い保育につながる。(岐阜聖徳学園大学教授)

参加者の声

- ・親子で一緒に作業をするのは、久しぶりで楽しかった。
- ・子どもたちが毎日過ごす園庭の環境が良くなっていくのはうれしい。
- ・子どもたちが毎日泥だらけになって帰ってくる理由がわかった。

(親子作業日に参加した保護者)



苗木を植える土づくり



親子で一緒に作業



三輪車で土留の丸太を運搬中



丸太の皮むき作業

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：169本

参加者数

県内：287人

計：287人

樹種

アベマキ・ムクノキ・オニグルミ・ケヤキ・ハンノキほか

高山市森部地域 飛騨漆の森づくり推進事業

岐阜県高山市



事業概要

飛騨春慶漆器など漆製品の産地である飛騨では、植物の「ウルシ」を循環して育て、塗料の「漆」として使用してきた。そこで、「ウルシ」を荒廃した山林や耕作放棄地に約15年にわたり毎年継続して植樹し「育てて使う」森の再生を目指す。主な活動は以下のとおり。①種から育てた苗を荒廃した耕作放棄地などに植樹し、ウルシの森の再生を行う、②ウルシの植樹を通し、一般市民などに「育てて使う」大切さと森林環境・漆への関心を高める。

事業成果

耕作放棄地である高山市丹生川町森部植樹地の畑と田の試験植栽したところ畑は無事成長した。田で水分が多いところは枯れたが、50cm程度の畝を作り植栽したところ、無

事成長した。植栽イベントには、一般市民、県・市の職員、木工スクールの学生、家具職人など多様な方が参加。植栽やウルシの循環利用などに興味を持っていただけた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ウルシ植樹を市民に知ってもらうことで、地元の飛騨春慶漆器業の再興が期待できる。(50代高山市商工労働部職員)
- ・ウルシ植樹が荒廃した山林や里山に行われていることにより、健全な里山の保全が期待される。(30代木工スクール学生)

参加者の声

- ・自分が植えたウルシが大きくなるのが楽しみ。機会があれば数年後に見に来たい。(小学生男子)
- ・木を植えて育て、循環利用する一翼を担えることを体験できて良かった。(家具メーカー職人)
- ・子どもたちの参加による自然とふれあう植樹体験の機会は少ない。数年後には漆を樹液として得ることができるため、漆を採取する体験イベントも開催してほしい。(30代女性)



植樹イベント



下刈り



獣害柵設置(電柵)



畝立てし、ウルシ70本を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.29ha
 植付本数：230本
 下刈面積：2.0ha
 除伐面積：0.1ha
 イベント：1回

参加者数

県内：69人
 県外：1人
 計：70人

樹種

ウルシ

さとやま自然楽校

静岡県裾野市



事業概要

先人たちがつくった大切な自然財産である里山の荒廃を防ぐとともに、次世代へ継承及び来訪者が利用できる森づくりを実施し、地域活性化につなげる。

事業成果

今年度は、バックホウ・運搬車両などを使用して、車両搬入路・展望地・沢の整備、多目的広場に落葉広葉樹の苗木445本程を植樹。野鳥・昆虫が寄ってくる森に近づいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地道な活動だが、これからも子どもたちのためにも継続してもらいたい。(森林ウォーキングコースの利用者)
- ・若い会員を増やしたい。活動を継続したい。

参加者の声

- ・子どもたちが森の中で遊ぶ姿を見ていた参加者が、「また、来ます」と帰って行った参加者の声は、活動の力になっている。



広葉樹苗木の植樹



沢の丸太橋架け替え作業



親子七夕竹灯籠作り



県民森づくり大作戦イベントで落葉のプールで楽しむ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：445本
 イベント：18回
 「野鳥・昆虫が寄ってくる」森づくり（雑木、竹林、植樹木の管理）：44回

参加者数

計：264人

樹種

クヌギ、コナラ

みどりの少年団結成50周年記念事業

愛知県犬山市、瀬戸市、豊田市



事業概要

みどりの少年団が結成して50年となる記念行事として、当初（昭和49年度）から現在まで活動を継続している3団（犬山市今井みどりの少年団・瀬戸市みどりの少年団・豊田市六所山みどりの少年団）で記念植樹行う。また、記念誌を作成し、関係機関へ配布を実施する。

事業成果

今回、記念誌などを作成し、関係機関などに配布し、宣伝活動を実施した。結果、新たにみどりの少年団についての問い合わせもあり、発展が見込まれる。

事業をよく知る関係者の声

- ・みどりの少年団活動の励みとなり、今後につながると思う。（学校関係者）
- ・もっと、認知・脚光を浴びてもいいのではないか。（学校関係者）

参加者の声

- ・初めて記念植樹に参加した。将来が楽しみ。（低学年児童）
- ・50周年、お父さんやお母さんが生まれる前からあったんだと知った。（低学年児童）
- ・植える樹木をみんなで選んだ。（犬山市今井みどりの少年団）



豊田市六所山みどりの少年団の植樹の様子



犬山市今井みどりの少年団の植樹の様子



瀬戸市みどりの少年団の植樹の様子



みどりの少年団結成50周年記念誌

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：8本
イベント：3回
記念誌発行：800部

参加者数

県内：約50人
計：約50人

樹種

ミカン、ブルーベリー、キンカン、リンゴ、イチジクほか

地域性苗木の育苗

滋賀県高島市



事業概要

目的は、地域の遺伝子資源を守り、地域性苗木の育苗と山への植樹を通して、生態系機能の備わった多種共存の森林を再生するものである。主な活動は以下のとおり。①地域の山の木から種を採取し、地域の遺伝子を引き継ぐ苗木を育てる「地域性苗木の育苗」、②地域性苗木を山林に植樹し、地域の生態系に配慮した「森づくり」である。

事業成果

苗高80cm以上になるものも出てきたため、植樹の予定を前倒しにして、約50本の大苗を植樹した。植樹にあたり、防鹿ネットの設置、植樹の方法、森づくり手法の検討、植生調査などについて、有識者を交えて研修形式にして行い、大変意義深いものとなった。苗木の育苗から植樹のステップに移行し、新たな協力者のつながり、参加者の輪の拡大、それに伴って会の認知度も上がっているように感じる。

事業をよく知る関係者の声

- ・周辺の山から種を採取し育てた地元の木で、生物多様性の森を造成することができればすがすがしいが、広葉樹の造林の確立した技術がない。模索しながらの造林活動に意義を感じた。(森林インストラクター)
- ・年に1回は、活動報告会を実施して、会員への活動内容周知、会員獲得への広報活動を継続して行う必要がある。(60代男性)

参加者の声

- ・獣害の深刻さに驚いた。人の手による森づくりの取り組みが喫緊の課題だと感じた。(40代男性)
- ・苗木の作業は、木の根っこが見られたり、木々の成長を感じることができ、面白い。学習にも癒しにもつながる。(20代女性)
- ・子どもと一緒に種を見つけて歩くのはとても楽しく、遊びながら自然を知られる良い機会。(40代女性)



朽木ブナ林でタネ拾い



朽木苗場にて苗木の手入れと苗置き台設置作業



朽木植樹地にてトチノキ大苗植樹



朽木での植樹地植生調査

実績とりまとめ

作業内容

植樹本数：50本
 育苗作業：5回
 種子採取：3回
 散策路整備：1回
 森林調査：2回
 獣害柵設置：2回
 植樹作業：2回
 育苗苗木：1,950本

参加者数

県内：120人
 県外：27人
 計：147人

樹種

トチノキ、ヌルデ、ネムノキ、
 ウワミズザクラ、ホオノキほか

うなぎの森植樹祭 (大阪・森は海の恋人)

大阪府高槻市



事業概要

2018年の台風により全滅した大阪北部の森林に腐葉土が川に栄養分になる広葉樹を植え、森林の早期復旧と絶滅危惧種の淀川の鰻の回復を図る。具体的には、大阪府木材連合会会員を始めマスコミ、漁業・森林関係団体、企業、ロータリー市民、子ども、行政、大学、NPOなど幅広い人々により、植樹、森林整備活動を実施し、参加者に森川海の生態系の保全と森林の早期復旧の大切さを体感してもらう。NPO「森は海の恋人」代表畠山重篤氏の「子供 海と森の教室」も開催する。

事業成果

今年の植樹場所はほぼ平地であり、転倒の恐れが減少した。また、毎年、子どもから大人まで様々な年代の方が参加されるが、今年は外国人留学生の参加があり、植樹活動に大変満足された様子であった。植樹活動に国境はないのだと感じた。

事業をよく知る関係者の声

・植樹を通じて他団体との新しい接点ができ、より良いパートナーとなればうれしい。(ボランティア団体)

参加者の声

- ・うなぎの森の活動は楽しい経験だった。いろいろな人と協力してヤマザクラなどを植えたり、楽園みたいな景色を眺めたりしているうちに、自分の心でもサクラが咲いているように感じた。うなぎの森の活動に参加したことがきっかけで、その楽しさを発見した。自然を保護したり、その美しさを保存したりして、私たちが自分の心を磨くのだと、しみじみ思い至った。(ロシアからの留学生)
- ・今回のボランティアは初めての植林活動だった。木の植え場所を探し、土を掘り、木を固定するのは難しかったが、みんなで一緒に頑張れた。10年、20年後、またうなぎの森に行って、大きくなった自分たちの植えた木が見られたらうれしい。(香港からの留学生)



植樹の様子



主な植樹場所は平坦で作業がはかどる



植樹木には防獣ネットを設置



植樹に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
 植付本数：220本
 下刈面積：1ha
 除伐面積：1ha
 森林教室：1回

参加者数

府内：204人
 府外：20人
 計：224人

樹種

ヤマザクラ、イロハモミジ、アカマツ

龍神温泉生物多様性の森造成事業

和歌山県田辺市



事業概要

龍神温泉を核に、かつては70万人を超える観光客が訪れて龍神村地域であるが、令和4年には37万人と半減。地域では温泉だけでなく森林景観を豊かにすることを観光客回復の一つの手段とするため、温泉向かいにある5haの人工林を伐採して、平成30年に紀伊半島で新たに発見された野生種のサクラであるクマノザクラを中心とした四季の彩り豊かな森林の造成を進める。今年度は、地域住民と一緒に、10種の多様な樹種3,084本を植栽。

事業成果

昨年度からクマノザクラ1,610本を植栽し、森林の多様性を向上させ、四季の彩り豊かな森林を造成するため、1,474本の多様な樹種を植栽することができた。地域でも人工林一色の温泉周辺景観に対して、少しずつでも改善していくことの必要性が理解され始めており、次年度以降への取り組み継続にはずみがついてきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・父は龍神温泉に桜を植えてきた。今回、温泉周辺に四季の彩り豊かな新しい森づくり始めることができ、亡き父も喜んでくれていると思う。これにより、少しでも龍神地域に来てくれる観光客や移住者が増えてくれるとうれしい。(実施団体会長)
- ・な植栽地に集団植栽されたクマノザクラが今後どのような成長経過を示していくのかを明らかにすることは極めて重要。(クマノザクラ新種記載論文執筆の林学者)

参加者の声

- ・昔から身近に見てきたサクラが新種だとわかり感激。(地域住民)
- ・私が植えた木が大きくなってきれいな森ができたら良い。(地元小学生)
- ・きれいな景観で花粉のない森が少しでも増えることはうれしい。(花粉症患者)



地元住民の方々も参加



植樹場所(遠景)



植樹



クマノザクラ成長調査

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
植付本数：3,084本
クマノザクラ成長調査：1回

参加者数

県内：46人
県外：5人
計：51人

樹種

クマノザクラ、アカシデ、イイギリ、トチノキ、コウヤマキ

おおつか里山桜並木回廊事業

島根県安来市



事業概要

約60年前に溜池完工を期して植樹されたサクラが、現在は枯渇雑木林と化している。本事業で桜並木を復元することを目的とする。植樹したサクラの苗木の健全な生育環境管理、溜池右岸部の里山区域を地域住民の新たなコミュニケーションの拠点となる環境整備を行う。

2年目となる本事業を事業創成期の仕上げの年度と位置づけ、事業目的を達成するため、①サクラの苗木の年間を通じた病虫害防止作業、②肥培管理・下刈り作業、③地域住民が四季を通じて豊かな心を育むのにふさわしい里山環境整備（ツツジ、モミジなどの低灌木の植栽）に着手する。

事業成果

今年度新たに植樹する区域の下刈り及び雑木伐採作業が、猛暑の影響を受けて、大幅な遅れとなったが、会員、森林組合有志の協力により、予定したサクラ、ツツジ、モミジ、クヌギ、クスノキなどの苗木を無事に植樹することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・少人数の高齢者中心の事業活動は限界で、植樹区域の今後の管理作業について、次世代へバトンタッチするPR活動などをしてほしい。
- ・事業目的となっている往年の桜並木が復活し、四季折々に渡り映える今後の里山景観が楽しみである。

参加者の声

- ・本事業実施区域の里山は日常生活で往来する道からは見えないところなので、生活道から見える里山地帯まで本桜並木回廊を延長してほしい。
- ・子どもの頃、溜池周辺で遊んだ風景、満開のサクラの元で家族・親戚で楽しんだ宴会が思い出される。往年の里山景観が復元されることを期待している。
- ・数年後に、溜池改修工事が完工すれば、溜池周辺部一帯が新たな里山景観となる。今後、おおつか里山自然広場として整備しなければならない。



ユンボによる整地作業



ツツジの植樹



モミジの植樹



サクラの植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.4ha
植付本数：230本
下刈面積：2.4ha

参加者数

県内：46人
計：46人

樹種

ツツジ、モミジ、クヌギ、クスノキ、サクラ

荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業

香川県丸亀市



事業概要

ごみの投棄場所となっていた荒廃した竹林を整備し、憩いの場や青少年の環境学習の場にするを目的とする。本事業の最終年度と位置づけ、森林公園として不可欠な水道設備と周囲の環境整備、擬木とチェーンを使用した保護柵、竹林内の遊歩道（約70m）を完成させ、一段とイメージアップにつなげる。

事業成果

メディアによって大きく報道され、完成した遊歩道をひと目見ようと、県内各地から訪れ、竹林内のさわやかな風の流れと太陽の木漏れ日を体感していただいた。今後の話題提供に大きくつながるものと思っている。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 荒れ果てた竹林、雑木林をこのように美しくよみがえらせたボランティアの皆さんに頭が下がる。5年間、事故もなくこれだけの仕事をされた皆さんは丸亀の宝である。今後とも維持管理も含め、お力添え賜わりますようお願いしたい。(地権者)
- ・ 過酷と言える作業だが、皆さんが一丸となって取り組む姿には本当に感心している。このようなすばらしい事業の記念碑を作成でき、職人冥利に尽きる。(石材店)

参加者の声

- ・ 作業中、散歩している方から「感謝の言葉」をいただくことが多くなった。(プロジェクトメンバー 70代女性)
- ・ 夏場の下刈りなどの作業が大変。(参加2年目 60代男性)



竹林の遊歩道整備



下刈り作業



小学生植樹体験の指導



擬木とチェーンを使用した保護柵

実績とりまとめ

作業内容

給水除草、水道工事、保護柵設置、遊歩道整備、環境整備

参加者数

県内：133人
計：133人

木に親しみ健康を学ぶ阿蘇の森林整備事業

熊本県阿蘇市



事業概要

森を愛し大切に思う人たちの拡大を目指すためには、森と人との関わりを楽しく学ぶ植樹会や環境教育を行う知識と体験ができる場を設けることが必要である。本事業では、①樹木と触れ合う遊びと学びの学習会、②草木の薬効や食など、専門家を招いた講演会及び調理教室、③植樹及び自生植物の解説名板設置、④キャンプ来場者、熊大薬学部学習会参加者、YMCA阿蘇キャンプ関係者を対象に植樹や学習会を実施。

事業成果

キャンプ場において、健康をテーマにした森林との関わりについて、楽しみながら学習を行う啓発事業を実施した。新しい取り組みで、非常に意義があった。植樹した「クロモジ」の漢方薬としての効能について、専門家からのレクチャーもあり、長寿社会に向けた、「健康な生活維持」の観点からも、良い学びができた。

事業をよく知る関係者の声

・薬用植物について、大学教授による講座と、薬用植物のハーブティー加工と試飲体験、それに、フィールドでクロモジの植樹と野草の名前・効能などの現場活動を行ったことで、多くの子どもや大人たちの自然に対する関心が増え、環境を大切にすると健康維持の重要性を認識するとても良い機会であったと考えている。今後も、このような事業を進めて行くことが、自然環境の維持に必要だと思った。(こどもデザイン研究所 代表)

参加者の声

・キャンプ場からの案内を受けて、子どもと参加。ネイチャーゲームや薬草講座ハーブティー加工体験など、子どもも楽しんで体験・学びができた。(30代主婦)

・屋外での野草の名前や効能を聞きながら、何も知らないで通っていた道端にも、こんなに多くの薬草があったことに驚いた。良い企画だと思う。(40代夫婦)



クロモジを植樹



薬草の調理教室



樹木と触れ合う遊びと学びの学習会



樹木名板を設置。子ども向け優しい内容と2次元コードからは詳しい内容が見られる

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：300本

参加者数

県内：25人
計：25人

樹種

クロモジ

番所鼻海岸防災林保全活動

鹿児島県南九州市



事業概要

南九州市番所鼻海岸防災林の防災機能と保健休養機能の機能増進を図るため、以下の活動を行った。①下刈り作業と枯死木の処理、②近隣の大川キッズクラブの子どもたちとマテバシイなど180本を植樹、③植樹木を強風から守るためスギ板の防風垣、根返りした木を保全するため土留め工を設置。また、子どもたちの遊具として三角ハウスを製作。

事業成果

継続した下刈り作業などにより、これまでに植樹した樹木の健全な育成が図られるとともに、枯死木の処理や遊具

の設置により、保健休養機能の増進が図られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・緑の募金事業の導入により、観光地でもある番所公園の価値が大きく増進したと感じている。これをきっかけにして更なる保全活動を進めていきたい。(顕娃おこそ会事務局長)

参加者の声

- ・これまで番所鼻海岸防災林に中で子どもたちの活動は考えていなかったが、これからは大いに利用していきたい。(大川キッズクラブ指導者)



地元の大川キッズクラブ、顕娃おこそ会のメンバーと植樹活動



会員の樹木医による枯死木調査



チェーンソーによる枯死木伐採



完成した三角ハウス

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：180本
下刈面積：0.8ha
スギ板防風垣：12m
枯死木処理：25本
土留め工：1基
木製遊具：1棟

参加者数

県内：48人
計：48人

樹種

ハマヒサカキ、ウバメガシ、モチノキほか8種

森林のチカラ・森林の恩恵にふれあおう! ~森のもつ8つのチカラ~

鹿児島県始良市



事業概要

森林のチカラ・森林の恩恵にふれあおうと、①林間学校では、竹灯笼の作成やキャンプファイヤーで火の大切さや怖さを学ぶ、②森と海のつながりの学習として、垂水千本イチョウの見学、猿ヶ城溪谷で自然を学び、垂水海潟漁港では、森林が豊かな漁港を育てることや桜島国際防災センターでは、火山の成り立ちや防災について学ぶ、③センリヨウ300本の植樹、④キノコ栽培教室、⑤タケノコ掘り体験と木工クラフト、森林ピックを実施。

事業成果

今年度は、「森林のチカラ・森林の恩恵にふれあう!」を事業名として、森林の8つのチカラについても学んでもらえた。林間学校では、新たに竹灯笼を作成し、子どもたちも感動していた。

事業をよく知る関係者の声

- ・手作りの昼食などを提供できたらよいと思う。(スタッフ)
- ・桜島国際火山防災センターでの研修は良かった。県内の林業に関係する施設の利用も考えても良いと思う。(スタッフ)
- ・スタッフへの事前研修も必要と考えられる。(スタッフ)

参加者の声

- ・タケノコ、山菜など山の恵みを肌で感じ共感した。(70代女性)
- ・森林の生育は長年かかるので継続してみんなで植樹などしたい。(70代男性)
- ・毎回、木工体験など楽しみである。(60代女性)



林間学校でのキャンプファイヤー



センリヨウ300本の植樹



キノコ栽培教室。原木へヒラタケ種菌を塗り込み



特用林産体験でタケノコ収穫

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：300本
 キクラゲコマ打ち：400コマ
 ヒラタケオガ菌：1ℓ

参加者数

計：247人

樹種

センリヨウ

西表島クリーン作戦を通じた緑化促進事業

沖縄県竹富町



事業概要

本事業の活動対象地であるユツン河口のマングローブ群生林は、漂着ごみの影響で幼木の成長が懸念されてきたことから、海洋漂着ごみ清掃活動と植栽の組み合わせによる緑化促進活動を実施する。ほか、今回は近隣のマーレー海岸で清掃や環境学習を行う。①行政、関連協会や財団との協議活動、②住民との情報交換や共有（地域ネットワーキング）、③緑化促進活動「クリーン作戦と環境学習の会」、④活動運営のための運営指導（運営リーダー育成・啓発・ノウハウ移転）。

事業成果

3回目の植栽活動。台風の後で、どこに海底の砂が積もるのがわかり、胎生種子が育つスポットを特定しやすかった。今後の植栽活動に活かせる。「活動運用マニュアル」のおかげで、島民たちで活動がしやすくなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・各参加者が様々な条件下で作業できるよう、何か学びの場や研修などがあるとよい。（ボーイスカウト関係者）
- ・プロジェクト活動があったことで、海岸清掃と緑化促進をするきっかけとなった。また、移住や仕事で住んでいる住民と集落の住民と協働する機会が得られた。（島外出身者、移住者、ガイドやゲストハウス経営者）

参加者の声

- ・ユツン河口近隣の海岸でも活動ができ、漂着ごみの事情とマングローブ幼木への影響を知ることができた。（30、40代 保護者）
- ・子ども会と連携した活動となり、良かった。緑化活動や保全への関心が高まった。今後、島民同士で、どのように活動をしていく方法があるか検討していきたい。（40～50代 ユツン河口近隣住民）



漂着ごみ拾い



マングローブの胎生種子



植栽活動



ユツン河口で環境学習

実績とりまとめ

作業内容

- 植付面積：30㎡
- 植付本数：250本
- 樹勢回復：50本
- 森林資源活用：250本
- 作業道修理：530m
- 海岸清掃：1回
- 環境学習：1回
- 運営指導：1回

参加者数

- 県内：45人
- 計：45人

樹種

- マングローブの胎生種子

